トップメッセージ

三井住友フィナンシャルグループ社長の北山でございます。平素より私ども三井住友フィナンシャルグループ（SMFG）をお引き立ていただき、心から御礼申し上げます。本ディスクロージャー誌の発刊にあたりまして、当社グループの平成17年度の業績、ならびに、平成18年度の取組方針等についてご説明いたします。

1．平成17年度の総括

（1）「中期経営計画」初年度における着実な成果

当社グループは、平成16年度までの「不良債権の集中処理期間」を経て、平成17年度は、中期経営計画の初年度として、「確固たる収益水準を確保」するべく、重点分野への積極的な経営資源投入を通じた収益拡大、ならびにクレジットコストの巡航速度化、の2点に取り組みました。三井住友銀行（SMBC）のみならず、三井住友カード、三井住友銀リース、日本総合研究所などグループ各社においても、収益力の強化を着実に進めました結果、SMBC単体で5,195億円、SMFG連結で6,868億円と、期初予想を大きく上回る当期純利益を計上いたしました。

また、クレジットコストが大幅に削減されたことに加えて、SMBCの不良債権残高は1兆円を切る水準、不良債権比率は2%を切る水準へと大きく低下し、資産の質は一段と改善いたしました。また、財務基盤についても、高い水準の当期純利益を計上したことに加えて、平成18年1月から2月にかけて総額5,886億円の普通株増資・売出しによる資本増強を行い、一層強化いたしました。

このように、当社グループは、平成17年度、収益水準、資産の質、ならびに財務基盤の面で着実な成果を収めることができました。

（2）新たな戦略事業の構築・強化と、持続的成長に向けた課題

また、当社企業価値の持続的成長に向けた、新たな戦略事業の構築・強化の取り組みも順調に進捗いたしました。すなわち、大和証券グループとの協働を一段と強化したほか、プロミス（株）とのカードローンにおける提携事業は初年度順調に滑り出しました。加えて、（株）エヌ・ティ・ティ・ドコモをはじめとした生活インフラ産業のリーディング・カンパニーとの決済ファイナンス分野における提携も大きく進展いたしました。

しかしながら一方で、SMBCは、過去における一部の法人のお客さま向けの金利スワップ販売方法等に

	平成16年度実績	平成17年度予想※	平成17年度実績
SMFG連結			
当期純利益	▲2,342億円	4,600億円	6,868億円
SMBC単体			
与信関係費用	▲9,548億円	▲3,000億円	▲2,309億円
不良債権残高	1兆8,246億円	1兆円強	9,601億円
不良債権比率	3.3%	2%強	1.7%

※平成17年5月予想

関して平成17年12月に公正取引委員会の審決を、平成18年4月には金融庁より行政処分を受けました。皆さまに多大なご心配、ご迷惑をおかけしましたことにつきまして、深くお詫び申し上げます。私どもは、今後、次に申し上げます取り組みを通じて、このような事態の再発防止に努めますとともに、皆さまからの信頼回復に全力で取り組んでまいります。

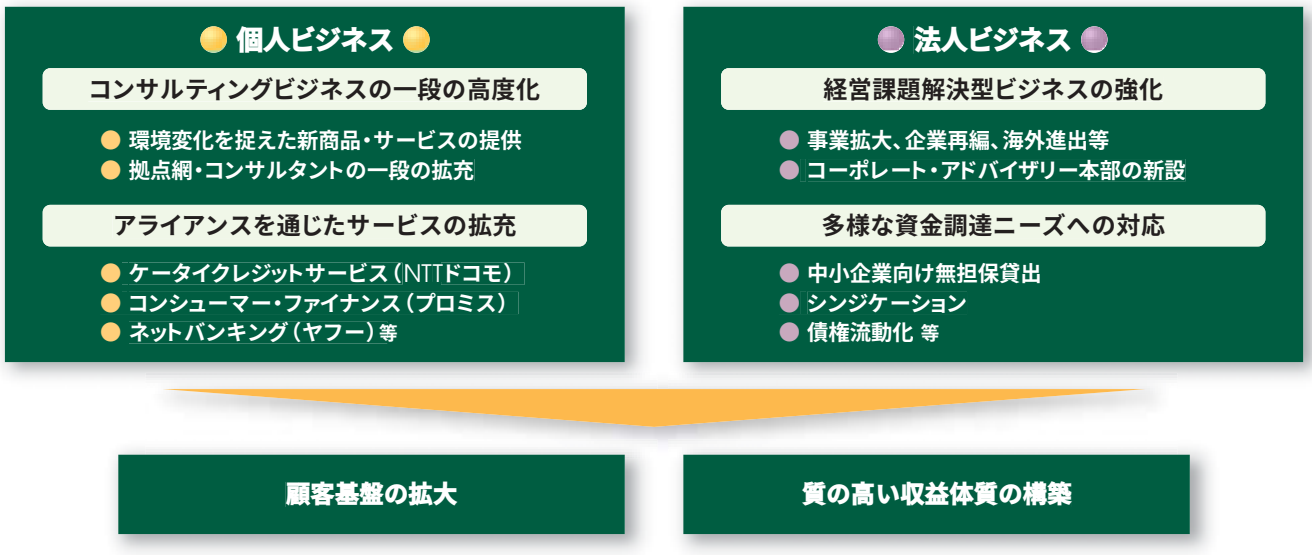
2．平成18年度の経営方針

当社グループは、改めて、「お客さまに、より一層価値あるサービスを提供し、お客さまと共に発展する」という経営理念に立ち返り、「お客さま本位」の考え方を徹底するとともに、法令遵守等のための諸施策を推進することによって、皆さまからの信頼回復に努め、今後、持続的成長を遂げていくための地歩を固めてまいりたいと考えております。このために、当社グループは今年度、「お客さまの価値創造に資する質の高い商品・サービスのグループベースでの提供推進」、および、「強固な企業基盤の構築」の二点に取り組んでまいります。

取締役社長　北山　禎介

(1) お客さまの価値創造に資する質の高い商品・サービスのグループベースでの提供推進

第一に、当社グループは、お客さまの視点に立ち、お客さまの価値創造に資する商品・サービスを提供することによって、顧客基盤を拡大するとともに、質の高い収益体質を構築し、もって、「複合金融グループ」としての持続的成長を目指してまいります。



具体的には、個人のお客さまに対しては、お客さまのニーズの多様化や規制緩和等の環境変化をタイムリーに捉えた新たな商品・サービス提供を進めるとともに、拠点網の拡充等も通じて、コンサルティングビジネスの一段の高度化を図ってまいります。加えて、プロミス(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ等、他業界のリーディング・カンパニーやグループ会社との協働を通じたサービスも一段と充実させてまいります。

法人のお客さまについては、ソリューション提供力を一段と高度化するとともに、ビジネスセレクトローン等の中小企業の皆さま向けの無担保貸出や、投資銀行業務を通じて、多様化するお客さまの資金調達ニーズに的確に応えてまいります。加えて、三井住友銀リースによる各種リース業務、日本総合研究所によるITコンサルティング業務、大和証券SMBC(株)による投資銀行業務等、グループ一体となったソリューション提供を更に推進してまいります。

(2) 強固な企業基盤の構築

第二に、当社グループは、持続的成長を支える強固な企業基盤の構築に取り組んでまいります。

①内部管理体制の一段の高度化

当社は、コンプライアンス、品質管理・CS(お客さまの満足度を向上させるための取り組み)、内部監査等にかかる内部管理体制を一段と高度化してまいります。まずSMBCにおいては、コンプライアンスについて、平成18年4月に新設した「コンプライアンス部門」を通じて、法令等の遵守を一層徹底してまいります。商品・サービスの品質管理およびCSについて

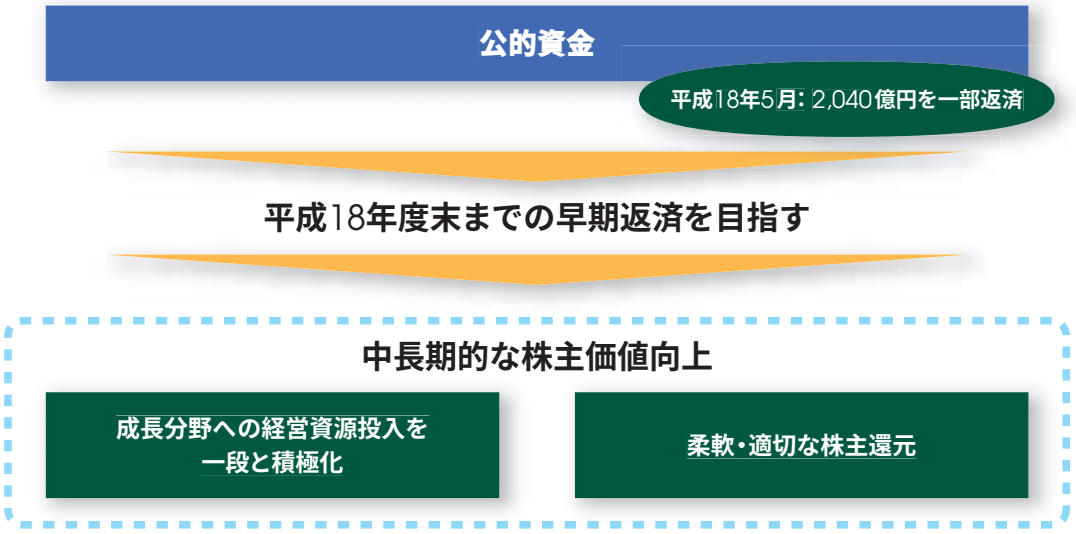
■内部管理体制の一段の高度化

は、同じく新設した「品質管理部」を通じて、お客さまのご意見・ご要望をより積極的に経営に活かしてまいります。更に、外部有識者、社外取締役を中心に構成する「業務管理委員会」を新たに設置し、コンプライアンスならびに品質管理・CS等にかかるモニタリングを一段と強化してまいります。SMBCにおけるこうした取り組みに加えて、当社としても、新たに設置いたします「グループ業務管理室」を通じて、持株会社としての管理・検証機能を強化するほか、監査機能の一段の強化を通じてグループ全体の内部管理体制をより強固なものとしてまいります。加えて、業績評価制度の見直しや、人材マネジメントの高度化に向けた取り組みも進めてまいります。

②財務基盤の一段の強化

また、当社グループは、財務基盤を一段と強化するため、引き続き、資本の質・量両面での拡充を進めてまいります。公的資金については、平成18年5月、簿価ベースで2,040億円の一部返済を行いましたが、残額についても、関係当局の承認を前提として、平成18年度末までの早期返済を目指してまいります。公的資金を返済した暁には、中長期的な企業価値向上の観点から、成長分野への経営資源投入を一段と積極化するとともに、柔軟・適切な株主還元策を講じることを積極的に検討してまいる所存です。

終わりに

当社グループの競争優位の源泉は、いち早く成長分野を見極め、独自のビジネスモデルとアライアンス、そして高い生産性をてこに収益事業化する力であると考えております。金融ビジネスにおける競争は激しさを増しておりますが、今後も当社グループはこの力を一段と発揮し、お客さまにより有益な商品・サービスをよりタイムリーに提供することによって、お客さまにこれまで以上に選ばれる金融グループとして持続的成長を果たしてまいりたいと考えております。そして、こうした取り組みの着実な成果をお示しすることによって、株主の皆さまや社会からのご期待にお応えしてまいりたいと考えております。皆さまには、何卒、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■財務基盤の一段の強化